

熊本大学医学部医学科の使命

豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追究、達成しうる医師・医学者を育てる。

		卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
医学部 医学科	学部全体	医学科、保健学科それぞれの教育目標を踏まえ、各学科各専攻が定める教育成果を獲得すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を取得した者に学士の学位を授与します。	<p>体系性：各分野の学問体系に従った教育課程を編成しています。</p> <p>段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って、応用的、発展的、実務的な科目を習得できるよう修学プログラムを編成しています。</p> <p>個別化(進路への対応)：医療者、研究者、教育者としての将来の各進路に則した科目履修ができるよう、編成しています。</p>	熊本大学医学部では、医学・保健学(看護学・放射線技術科学・検査技術科学)の発展に寄与し、広く社会に貢献できる医療者・研究者・教育者を育成するために、豊かな人間性、優れた協調性、高い倫理観、十分な基礎学力、科学的探究心、国際的視野を持つ人を求めています。
	医学科	熊本大学医学部医学科の使命を達成するため、「熊本大学医学部医学科教育成果」を定めています。7つのコア教育成果(大項目、A. 豊かな人間性、B. 基本的診療能力、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践、E. 医学研究、F. 国際的視野、G. 地域医療と社会貢献)とそれぞれの下位に属する総計50の教育成果(小項目)を獲得するために編成された教育課程を学修し所定の単位を取得、これら教育成果を獲得した者に学士(医学)の学位を授与します。	<p>熊本大学医学部医学科の使命を達成するため、医学科学生が卒業する際に獲得しているべき能力を明文化した「熊本大学医学部医学科教育成果」を定めています。これは、7つのコア教育成果(大項目、A. 豊かな人間性、B. 基本的診療能力、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践、E. 医学研究、F. 国際的視野、G. 地域医療と社会貢献)と、それぞれの下位に属する総計50の教育成果(小項目)からなります。医学科ではこれら教育成果を学年進行に応じて段階的に学修し、卒業時にはすべての教育成果を獲得できているようにカリキュラムを編成しています。</p> <p>体系性：教育成果を獲得するため、各分野の学問体系に従った教育課程をバランスよく編成しています。</p> <p>段階性：学年進行に従って段階的に教育成果を獲得できるよう編成しています。</p> <p>個別化(進路への対応)：教育成果を獲得することにより、臨床医だけでなく医学研究者や医療行政担当者まで、様々な進路に対応できるようになっています。</p>	熊本大学医学部医学科の使命を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。

※ 医学科教育成果については次頁参照

熊本大学医学部医学科教育成果

平成 25 年度医学教育 FD ワークショッププロダクトをもとに、カリキュラム企画評価委員会にて改編、平成 26 年 6 月 25 日医学科会議にて承認。

教育成果

A. 豊かな人間性

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、病める人たちやその家族の気持ちを理解した対応がとれる。

1. 社会通念や一般常識に基づいて行動し、法規及び規則を遵守する。
2. 患者及びその家族の立場を尊重し、誠実、利他的、共感的に対応できる。
3. 患者及びその家族固有の心理的、社会的、文化的背景に配慮した対応ができる。
4. 医学、医療に影響を及ぼす文化、社会的要因について説明できる。
5. 組織のリーダーとして行動するために、どのような人間性が求められるかを理解する。

B. 基本的診療能力

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、医師となるにふさわしい、統合された知識、技能、態度に基づき、全身を総合的に診療するための実践的能力を有する。幅広い疾患の診断論治療論を理解し、一部を実践できる。

【基本的知識】

1. 人の正常な構造と機能、発生、発達、成長、加齢、死、心理、行動について説明できる。
2. 疾患の原因、病態、自然経過、危険因子と予防について説明できる。
3. 治療の原理（薬物治療、放射線治療、外科治療など）について説明できる。
4. 疫学、人口統計、環境、行動科学について説明できる。

【医療の実践】

5. 心理、社会的背景を含む患者の主要な病歴を、患者に配慮しつつ正確に聴取できる。
6. 成人及び小児の基本的診察手技を適切に実施できる。
7. プロブレムリストを立て、鑑別診断を行い、診療録（電子カルテ含む）を作成できる。
8. 疾患の診断と治療に必要な臨床検査、検体検査、画像診断、病理診断を選択し、結果を解釈できる。
9. 疾患の診断と治療について、患者の背景と医学的根拠に基き、優先順位を考慮して計画できる。
10. 慢性疾患の長期的フォローアップやリハビリテーションに参加できる。
11. 救急医療、集中治療に参加できる。
12. プライマリケアに参加できる。
13. 緩和医療、終末期医療の概要を理解している。
14. 患者教育の概要を理解している。

C. 自己研鑽とプロフェッショナルリズム

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、医師あるいは医学者としてのキャリアを継続し、生涯にわたって自己学習を継続することができる。高い倫理観をもって、生命の尊厳と人の命と健康を守る医師としての職責を深く認識している。

【自己研鑽】

1. 自己の現状を適切に評価して、目標を設定できる。
2. 自己の目標を達成するための方法を考え、自己学習ができる。
3. 自らのキャリアをデザインし、自己の向上を図るため、達成に向けて学習を継続できる。

【プロフェッショナルリズム】

4. 患者にとって最善の治療を提供する意識を持つ。
5. 常に自分の知識、技能、行動に責任を持って患者に向き合うことができる。
6. 倫理的問題を把握し、倫理的原則に基づいて行動できる。
7. 医療に関連した法規（守秘義務を含む）を遵守する。
8. 情報を適切に管理・利用することができる。

D. チーム医療と信頼される医療の実践

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、医療は患者を中心におき、多職種 of 医療構成員よりなるチームで実践されることを理解する。患者やその家族、チーム医療構成員などと良好な信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を有する。患者に信頼されるために医療安全やインフォームドコンセントが重要であることを理解する。

【コミュニケーション】

1. 基本的なコミュニケーションスキルを理解し、実践できる。

【チーム医療】

2. 医療職種の専門性を理解し、チーム医療における役割について説明できる。
3. 医師同士や他職種との信頼関係を築くために、コミュニケーションが重要であることを理解する。

【患者に信頼される医療】

4. 医療を実施する上で良好な患者-医師関係を構築できる。
5. 患者及びその家族との良好なコミュニケーションを実践できる。
6. インフォームドコンセントの重要性を理解する。
7. 患者の安全性を確保した医療を実践できる。
8. 医療の安全性と危機管理について説明できる。

E. 医科学研究

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、旺盛な科学的探究心を有する。医学研究の基本を理解し、既存の研究成果を論理的かつ客観的に評価できる。また、現代医学における問題抽出とそれを解決するための研究計画立案を倫理原則に則って行える。

1. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解する。
2. 基礎および臨床研究に関する倫理的事項を理解する。

3. 論文等から情報を適切に収集でき、未解決の医科学的問題を抽出し、仮説を立案できる。
4. 立案した計画に基づき医科学の興味ある領域での研究を指導のもと実践できる。
5. 新しい知見を明確に説明し、論理的かつ客観的に評価できる。

F. 国際的視野

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、社会に対する幅広い視野を有し、本邦および国際社会における医療及び保健の現状を理解する。

1. 国際社会において、情報を共有するに足る英語力を有する。
2. 国内および国際社会に貢献する意欲を持つ。
3. 国際社会における医療及び保健の現状を理解する。
4. 医学・医療の研究、開発が国際社会に貢献することを理解する。

G. 地域医療と社会貢献

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、地域医療の現状と問題点を認識している。地域住民の健康増進に貢献するため、地域の保健・医療・福祉・介護及び行政との連携協力するための知識、技能、態度を有する。

1. 各種保険制度など医療制度を理解する。
2. 患者と患者家族の健康の維持、増進のために地域の保健、福祉、介護施設の適正な活用が重要であることを理解する。
3. 地域の健康・福祉に関する問題を掌握し、疾病予防プランを立てるための知識を習得する。
4. 地域医療の実践が社会貢献に必要であることを理解する。
5. 医学・医療の研究開発が社会に貢献することを理解する。
6. 熊本県固有の事例を通して、熊本県の地域医療を理解する。

学修成果（医学部）

医学科
豊かな教養
・教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身につけ理解することができる。
確かな専門性
・細胞の基本的な構造と機能、その分子生物学的な特徴を説明することができる。 ・人体の構造と機能を説明することができる。 ・人体を構成する物質の種類、基本構造とその代謝経路を説明することができる。 ・各疾患の病態と症候、診断、検査、治療法について説明することができる。
創造的な知性
・主要な症候・症状に対して、その機序を理解し、診断を進めるとともに、治療方針を立てることができる。
社会的な実践力
・医療・医科学に関わる倫理的・社会的問題を認識し、様々な倫理的な考えを理解し、それに基づいて行動できる。
グローバルな視野
・社会医学的な貢献をすることができる。 ・国際的に活躍する研究者をめざすことができる。
情報通信技術の活用力
・医療の情報化に対応することができる。
汎用的な知力
・専門分野の文章表現力、理解力により、情報や意見を伝えることができる。